



八期歴史会往来第27号

2019年8月12日～8月30日

(令和元年第6号)

●大石さん森さん こんにちは

久しぶりに 池田さんと電話連絡 取れました。

① 男の部屋数の件 もうすこし 待ってほしいとのこと

② 観光案内 メールしました。

イ. 大鳴門渦潮観光は 船からの写真 添付されて おられますが ここは 遊歩道約450mの橋の上から ガラス越しに 約45mの高さの所を 歩いてみることにになります。(誤解を招かないように・・・と言われました) 遊歩道の写真もありますが 船からの方が 迫力あります。 大鳴門橋 遊歩道 渦の道と題に入れておりますが・・・

ロ. 大歩危峡 の遊覧船 は 乗らない ことにしています。

遊覧船の発着所まで かなり 降りていかねばなりません。 帰りは 坂を歩いてのぼることになるので 外してありますとのこと。 上から 見ることにになりますが?どうでしょうか?

ハ. 松山 道後温泉 散策 温泉駅から 約10分の所ようです。 なだらかな坂を下りて行くようです。 途中で あたらしい お風呂や が出来ているようです。あすか?いずれにしても 夜の散策 問題なさそうです。 17時前後に ホテル着 食事の前に?後に?するか バス到着 前に 決めましょう。

以上 よろしく木場 祥雄

...

●大石さん

おはようございます。

大龍小学校 校歌 の 譜面 送ります。

だれか 歌えるような人が おられたら よろしく木場 祥雄...

●大石さんへ四国旅行の資料拝見、ありがとう。

鳴門の渦潮観潮時は、大潮の時期に当たるとのこと大渦が期待できそうですね。

やや無理して加えて頂いた「阿波おどり会館」でしたが、阿波踊りのハイライト的な場面

として見応えがあるのではと思っています。参加者の皆さんとの再会とあちこちの見物で、楽しい四国旅行となりそうですね。好天を祈るや切です。 佐倉市 古市

●大石さん

中国旅行 草原、湖、鳥など スケールが違うようです。
道端で 冬虫夏草 売っているのには 驚きました。
さて、 四国 観光場所 影響受けているようです。
もう少し いこまツアーリスト池田様に 電話し 詳細 調べてもらうように 依頼しました。
男部屋 の件 も含めて 来週 返事 もらうことになっています。
近々 観光案内 チラシが お疲れ様です。参加者の皆さんの お手元に 届くことと思います。
木場 祥雄

From: 大石慶二 [mailto:kjoishi3@gmail.com]

Sent: Friday, August 16, 2019 4:22 PM

To: 隈元達雄; 西山和宏; 古市庄八郎; 木場祥雄; 崎元雄厚; 稲森俊英; 中間一範; 木佐貫晃嗣; 森繁; 藤崎宏忠; 木場義孝; 日本の祝日

Subject: お盆も明け、台風も去り、まだまだ酷暑が続きます。

お身体に気を付けて9月の再会を楽しみにしています。かずら橋が10号台風で傷んだという情報アリ。ぶらり旅の中原編あと一つです。

●了解しました。よろしく願いいたします。暑さに負けず頑張ってください。

2019年8月19日(月) 20:20 <mh1515@y-mobile.ne.jp>:

四国旅行の資料を送って 戴きまして 有り難うございます! 12日から今日まで 江戸川に行っていて 御礼が遅くなりました 詳しい内容で これも入れまして 鈴木恵美子さんに 出して見ます 夏の 御主人さまの調子が良かったら 旅行に行くと 保留にして 貰ってます 毎日のこの暑さですからね ひ弱い方が お元気にお過ごしなら 行けるとの事でした! 念のため だしてみますね 堀田 昌子

●いやあ 面白かった。

若い時にきたかったですなあ。大石くんが五山に数えるだけのことはあります。

夫婦の会話だと思うが、母ちゃんの中国語はまるで喧嘩に聞こえました。(笑)
1600mであの景色、まさに日本にはない山、そして風景です。やまの断崖も凄いが、建物も山中とは思えません。階段はラッシュアワーそのものですね。中国でも人気の山ということが伺われます。
当時の3300円は安い。今も同じような価格帯でしょう。そんなに変わっていないので。

クマモト タツオ

参考まで。

あの夫婦は本気で喧嘩していたのですよ。

よくわかりましたね。

いつかパワーがあったら東岳泰山と青島の労山なら4.5日あったら行けます☺ただしいずれも中国の山はただひたすらに石段が続きますが。

●随分と良い楽しい旅行をなさいましたね!

中国人が言っていました偉い人は、春か秋に出張しそうでない人は、夏か冬だと...

●いつもありがとうございます。

薩摩・大隅は、都から遠く離れた辺境の地のような感じがなきにしもあらずですが随分、早くから中央との交流が察せられます。

記事にある夜久具は装身具として珍重されそれを求めて南方から移住してきた人たちがいたと思います。

●大石さんこんにちは

森さんの件 良かったですね。一緒に 行きましょう！いこまツアーリストには どうしましょう。

行くということに 変更しましょうか？木場 祥雄

●大石さんこんにちは

鹿児島風土記拝見、島津荘の名前の由来が分かりました。

歴史をたどれば、そもそもの地名は日向の国にあったのですね。

島津家初代が頼朝から荘園管理を任され、そのまま島津性を名乗った

のが始まりなんですね。

勝みなみちゃんも戦線復帰して良かったですね。腰痛などが長引いているのかと思っていたので、新聞に

名前が出ていたので安心しましたよ。まあ9位は仕方ないでしょうが、渋野の陰に隠れないようがんばっ

てほしいですね。

佐倉市 古市

○8月26日

司馬遼太郎は、その著作から薩摩は、あまり好きでないように思います。

さて、この本ではどのように書いているのでしょうか？

海音寺潮五郎は、彼のデビューの頃から高く評価し、引き立てました。そのことは彼も認めています。

●25日隈元

「島津義弘 没後400年」に寄せて「その二」をやっと書きました。

どこまで、書けるやら...。ですが、まあ頑張ってみます。

今日は次男が知覧に用事があるというので、夫婦で便乗して行って、次男が用事をすませる間に、史跡を1ヶ所でも巡ってみようと思っています。雨が降らなければいいのですが。多分振られるでしょう。そのときは、喫茶店です。

島津義弘 没後400年シリーズに寄せて クマタツの想い

その二 島津氏初代から5代まで、蒙古来襲と南北朝の動乱

島津氏初代・忠久（惟宗忠久）は元暦2年（1185）8月、今から834年前に源頼朝から島津荘（現在、

宮崎県都城市)の下司職・地頭職に任じられ島津姓を名乗った。

では、そもそも島津荘(8,000町歩)そのものはいつ作られたのか。それまで私も知らなかった島津荘の立荘の歴史が最近の南日本新聞に掲載された。鹿児島風土記の曾於編②として「島津荘と平季基」の記事である。それによると、成立時期について、「島津本庄は、万寿年中(1024~1028)に無主荒野の地を以て、開発、庄号・・・」とあり、それを宇治関白家(藤原頼通)に寄進したものであった。とあることから今から1000年近く前につくられたものである。その後も変遷を経て、約150年後の1185年に島津忠久をこの下司職・地頭職に任じたものである。そこが島津氏の発祥になるわけだ。詳細については、前記新聞記事が大石くんにより、メール添付されているので参照されたい。

初代島津忠久の源は、源姓、藤原姓、惟宗姓の三つの説があるが、最近の研究では、惟宗姓がもっとも有力とみられている。忠久は鎌倉幕府の初代将軍・源頼朝に仕えて御家人として頭角を表した。その後、薩摩、大隅、日向の守護(県知事)に補任される。その他、越前の守護にも補任されている。しかし、1203年、比企能員の乱に連座して守護職を罷免されたが、後に薩摩守護職にのみ復職した。しかし、九州には下向していない。

2代島津忠時(1202~1272)は薩摩、越前、若狭の守護に就く。1265年、嫡子・島津久経に薩摩の守護と、薩摩郡などの地頭職を譲る。子供がたくさんおり、それぞれ給黎、町田、伊集院の祖となる。島津家800年の礎を構築したと言われている。

3代島津久経(1225~1284)は薩摩の守護、他の任に就く。鎌倉幕府の御家人として、扨番衆や供奉随兵などを務めた。1275年、蒙古襲来に備え、幕府の命をうけ筑前国宮の薩摩国役所で同国の御家人を率い、壱岐に渡り奮戦した。島津氏3代にして初めての九州下向である。

4代島津忠宗(1251~1325)は薩摩の守護、他の任に就く。島津久経の嫡子。1274年の第一次蒙古襲来(文永の役)の翌年にあたる1275年に鎌倉幕府の命で父・久経とともに筑前宮崎で沿岸警備を担当した。息子・忠氏らは、それぞれ和泉家や佐多、新納、樺山、北郷の各氏の祖となった。私生活では詩歌をよくする文人武将でもあった。

5代島津貞久は薩摩、大隅に守護に就く。先代忠宗の嫡子。1333年、足利尊氏の挙兵に賛同し、九州の少弐、大友両氏とともに鎮西探題(鎌倉幕府の出先機関)を攻め落とす。この軍功が認められ、日向の守護、大隅の守護となる。初代忠久以来、百数十年ぶりに悲願の三国(薩摩、大隅、日向)の守護に補任されることになった。

当時の貞久の居城は薩摩碓山城(薩摩川内市)にあったと思われる。その後、尊氏が建武の新政に叛旗を翻すと、貞久は幕府方に身を投じて各地を転戦した。

この間、南朝方に属した伊集院、市来両氏を始めとする支族の抵抗は凄まじいものがあった。貞久も薩摩の東福寺城(鹿児島市多賀山)や谷山城などの攻防戦ではさすがに苦戦を続けた。

貞久の世子(次期当主)は次男・宗久であったが、宗久は1340年に没してしまう。そこで貞久は薩摩を三男・島津師久に、大隅を四男・島津氏久に譲ることになる。師久も氏久も第6代当主を名乗ったことから、その後、7代まで二人の当主が存在し、少なからぬ混乱を招く事になる。師久は総州家、氏久は奥州家を興し、長男・頼久は川上家の祖となった。

なお、初代から5代までの墓所は福昌寺ではなく、出水市の感応時、鹿児島市清水町の本立寺(五道院)跡などにある。

●四国旅行の情報

大石さん

おはようございます。

昨日 午後から メール 送受信できなくなり 電話で 交信し

再稼働 作業してみました が 基本アカウントの書類が 見つからず KCN (メール取り扱い業者) へ再発行依頼 本日 東生駒の事務所へ 取りにいき そこで セットしなおしてもらい たいま 交信できるようになりました。

有馬さんには 今のところ 参加しないことになっています。 春の観桜会にも 欠席 その他 催しにも不参加の状況にあります。

大石さん問い合わせ来ているが 参加できるのであれば 大歓迎とメール連絡してみます。

本日 いこまつーリスト池田様は 休みをとっている 明日は 事務所に 出所の予定

明日 電話します。

今日は 朝 25 弩前後 すこし 過ごしやすい朝となりました。

以上 木場 祥雄

From: 大石慶二 [mailto:kjoishi3@gmail.com]**Sent:** Sunday, August 25, 2019 10:42 PM**To:** yoshio koba**Subject:** Re: 森くん行けるようです。(返信)

有馬さんは参加しますか？

メンバーに入っていないのでは？

2019 年 8 月 25 日(日) 11:02 yoshio koba <kobayo77@kcn.jp>:

大石さん

おはようございます。

森さん 旅行 行けるか 良かったですね。

明日 いこまつーリスト池田様に 連絡します。

木場 祥雄

追伸 新大阪駅より 乗車される方々へ

新大阪駅 1F 正面口 上り階段 西側郵便ポスト付近で 集合 午前 11 時 30 分 (バス出発 11 時 40 分)

出発場所 観光バス駐車場 西側

ここでの まとめは 今回は 有馬さんに お願いしようと思います。

彼は 高野山・伊勢神宮神宮の時に参加しています。

後で 案内をメールします。私の方で 皆さんへ コピー取って 新大阪駅構内図 と一緒に

郵送します。

●大石さん

こんばんは

本日 新大阪駅から 乗車される 10 名の方々へ 集合場所の案内を 添付案内文と

新大阪駅 構内図（昨年と同じ）を同封し郵送しました。

木場 義孝さん、上田健治さん 丸野輝子さん 稲森 俊英夫妻さん 藤崎 宏忠さん 柴田 英紀さん
古市 庄八郎さん 伊東 昌子さん 堀田 昌子さん 10名

有馬さんからは返事なし（私の勘違いでした）

池田さんには森さんが参加することになりました。（確認済みです）

安倍洋子さん 第1日 夕方 花樹海より参加 昼食代 観光 2か所 含め 2,930円返金します。

以上 今日 電話で 池田さんと話しました。

クーポンなどの引き取りは 9日（月） 午後に予定しております。

玉龍八期会四国旅行2019

新幹線利用者 皆様の集合場所のご案内

いよいよ旅行も間近になりました。新幹線利用の皆様へ JR新幹線 新大阪駅 集合場所を
JR新幹線 新大阪駅構内図を添付し、下記の通り、ご案内いたします。

記

日時：2019年9月17日（火）

集合時間：午前11時30分（バス出発時間 11時40分）

集合場所：新幹線 新大阪駅 1F 正面口（前回と同じ）

上り階段 西側 郵便ポスト付近

（この付近には 腰掛けるベンチなどはありません。近くにはセブンイレブンコンビニ、
奥には トイレあります。）

新幹線新大阪駅より集合場所への行き方：

②の南出口をすすめます。 エスカレーターが利用できます。

- ① 新幹線 新大阪駅 正面口（中央口）出口からは 左へ歩き 千成ひょうたん前を 3F
左へ、階段を下りて（エスカレーターは上りのみ）下りて 2F 右前に すすみ 約10m
正面口 階段を下りてください。1F 右横に 郵便ポストあります（両サイドにポストあり）
- ② 新幹線 新大阪駅 南口からは 改札を出て右へ進みます。3F右手に階段（エスカレーター）
があります。これを下りて、2F 約10m 正面階段を下りてください。

1F 右横に郵便ポストがあります。（両サイドにポストあり）

バス乗り場は ここから 約100m 西へ歩いた観光バス駐車場にあります。

新大阪駅に着かれ、集合場所の分からない方は 木場 携帯 090-9611-4233
へ連絡ください。

●大石さんこんにちは

鹿児島風土記拝見、島津荘の名前の由来が分かりました。

歴史をたどれば、そもそもの地名は日向の国にあったのですね。

島津家初代が頼朝から荘園管理を任され、そのまま島津性を名乗った

のが始まりなんですね。

勝みなみちゃんも戦線復帰してよかったですね。腰痛などが長引いているのかと

思っていたので、新聞に名前が出ていたので安心しましたよ。まあ9位は仕方ない

でしょうが、渋野の陰に隠れないようがんばってほしいですね。

佐倉市 古市

日向の中でも当時の大隅に近い今の都城市付近が遺跡や遺物が今も残っているようです。いつか鹿児島に帰ったら島津をキーワードに飢肥藩あたりまで1泊で周りましょうかね。隈元くんも誘って(ルートを作ってもらって)巡りたいですね。

いいですねえ。是非実現するようにしましょう。

その頃は、森くん回復もしているでしょうから。

今朝はグラウンドゴルフに7時30分から出かけましたが、1ゲーム終わったところで、大雨に合い残りの3ゲームは中止しました。雨は止んだのですが、グラウンドコンディションが悪くて、スニーカーも目茶苦茶になりました。

クマモト タツオ

●大石さん こんにちは 古市です。島津氏の史跡関連をめぐるツアー、いいですね。

隈元さんか、帰ってきたら、島津義弘公の敵中突破の際に奮戦し、身代わりとして死去した島津豊久を祀る天昌寺に行こうとの話もあります。是非ご一緒したいですね。先般世界遺産に登録された「百舌鳥・古市古墳群」をツアー(8/25~26)で見物してきました。古墳群(49基)の最大のサイダは仁徳天皇陵

○長沙 一度 行って見たかったところでした。布地 縫製品が 多く生産されているところ、

岳陽 洞庭湖 など 観光されておられるようです。

中国有数の歴史文化都市と呼ばれ、自然風景も美しく たくさんの人々を引き付けてきた所らしいですね 地球の歩き方に 載っていないような 史跡など 行っておられるようです。

中国は 広いですね メールしていただき ありがとうございます。木場 祥雄

● 「司馬遼太郎と明治」を手にして、「翔ぶが如く」と「坂の上の雲」を読み返してみようと思いました。「翔ぶが如く」はおおよそ40年前、残念ながら1巻は初版ではありませんでしたが2巻以降は、初版で揃えることができました。

「坂の上の雲」は文庫で読みました。

昨年11月、同期と三笠を訪れる前に文庫の8巻を改めて読みました。

三笠では、まず艦橋に上りました。

持参した双眼鏡は、ツアイスではありませんが東郷さんの物と同じ倍率は8倍。

「司馬遼太郎と明治」の初めに「大久保の目からみれば、西郷は巨大な落魄者であった（「翔ぶが如く」）」とあったのには、驚きました。 西山

○編集者は、これをいつかどこかで書きたかったのでしょうか。 西山

●読書欲旺盛でいいですね。

私は、「翔ぶが如く」を20年くらい前にBOOK.OFFで揃えましたが、未だに読了できず、積ん読のままです。気合を入れないといけないですね。 クマモト タツオ

●この後は

湖南の南編第2部を2、3日以内に完成します。

あの三国志演義で魏・呉・蜀の激突した洞庭湖（長江につながる）赤壁の近くの中の君山と岳陽を旅した日本からではなく中国国内に居を構えて国内を旅する初めての記録です。大石

●「愛燦燦」がバックに流れる中を大石くんの生徒さんたちの故郷が大石先生を優しく迎えてくれる様子は最高です。

大石くんのこれまでのyoutubeでも音楽を有効に使っているのをたくさん見てきましたが、今回も秀逸ですね。これからも大石くんのセンスでいい音楽を使ってください。

この「愛燦燦」はわたしたちの合唱団でも地方公演などでよく歌っていて思い入れがあるせいかわかりませんが、大石先生の生徒とのふれあいこそ「人生って素敵なものですね」を地でいっています。ブラボー！

クマモト タツオ

○画面から2004年とのことですがどこかで聞いたメロディだとは思いましたが、そうでしたか大石くんにとって中国はなにかも人生最大の贈り物であったことでしょうか

●-これ以前の旅行は近畿日本ツーリストなど日本のパックツアーに申し込み、3回ほど兄や隣の坊さん達と日本発で巡りました。重なる都市の観光地は申し出て自由行動をとらせてもらいましたがそれでも日本人団体行動には違いありませんのでやがてマンネリにはなりますね。その点

この作品「湖南の北にある岳陽・洞庭湖めぐり」は気持ちの上で全く違った旅の始まりでした。

日本人ではなく中国人でもない、ハーフみたいな気持ちと言ったらいいのかなあ。

この旅の後は日本に帰って協会活動で知り合った留学生たちとビザの範囲（14日間）での中国旅に移っていきます。日中関係もこの後怪しくなってきた中国の都市を巡っていても日本人のツアー旅行社の団体には会わなくなっていました。（旅行者の発行する新聞チラシにも載らなくなっていました、それは現在でも同じですね） 大石

●洞庭湖が印象的でした

白楽天の「洞庭湖に題す」

岳陽楼 訪問とは精彩！ 西山

●大石くんの本当の中国探索の旅は若い生徒さん二人と始まったのですね。

彼女は、大石くんのこれまでに、一番日本語をたくさん話していました。上手です。それまでも勉強していたんでしょうか。

8万人の街の岳陽もいい街ですね。建物も大きく、風揚げなどあって。ただどこに行ってもクラクションは・・・。

普通のアパートでの普通の生活まで見ることができ、物見遊山だけでない見聞ができるのも生徒さんとの信頼の賜物でしょう。

カエルは風通に食卓に出るのでしょうか。それとも賓客向けのご馳走ですか。

ホテルもきれいです。

街には街路樹がいっぱいなのも目につきました。

クマモト タツオ